

令和7年度インクルーシブな学校運営モデル事業 取組概要

目的・目標	● 特別支援学校と小・中学校が相互に情報を共有しながら、交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方や従来の枠組みに捉われない体制等について、十分な研究と検討を積み重ね、児童生徒の変容を検証していくことにより、すべての児童生徒が安心して学ぶ環境をつくり、可能な限り、地域の学校で共に学ぶ仕組みの基盤を構築することを目指す。
-------	---

学校運営 連携校	横浜市立若葉台特別支援学校(障害種) 肢体不自由障害(A部門)、知的障害(B部門) 横浜市立若葉台小学校 横浜市立若葉台中学校	隣接型	カリキュラム・ マネージャー	横浜市立若葉台小学校 教員(正規職員) 小学校勤務11年、特別支援学校勤務9年
-------------	---	-----	-------------------	--

事業1年次の 取組概要、 成果・課題	<p>【取組概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に特別支援学校小学部1年生と小学校1年生において、交流及び共同学習を実施。実施する単元については、カリキュラムマネージャーを中心に、小学校・特別支援学校の双方の担任と連携を取りながら検討して決定。 実施できる教科や単元は、児童生徒が入りやすく、かつ、安定して継続的に実施できる教科・単元を想定して実施 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科学習におけるそれぞれの学習目標の達成と、非認知能力部分における目標設定の在り方 小学校での授業における教室等の環境の更なる工夫 目標達成を踏まえたカリキュラムや単元の中で効果的な活動や位置付けの整理
--------------------------	--

取組概要(事業2年次)

- ・本事業の大きな目的である「すべての児童生徒が安心して学ぶ環境づくり、可能な限り、地域の学校で共に学ぶ仕組みの基盤構築」を引き続き追及し、1年次の成果や課題を踏まえ、さらに拡充・発展させた。
- ・対象学年の拡大(1年次は1年生で実施したが、2年次は1,2年生で実施)、実施教科の増加、それに伴うカリキュラム・マネージャーや兼務辞令発令教員の増員等を行った。
- ・共通指導案をカリキュラム・マネージャーが中心となって作成し、各校の校長と担任とで授業前に確認・共有を行った。
- ・1年次で「非認知能力部分における目標設定の在り方」が課題としてあげられたことを踏まえ、横浜市教育委員会事務局が示している「社会情動的コンピテンシー」を参考に、非認知能力に着目した授業を展開した。

横浜市が注目する社会情動的コンピテンシーの項目		インクルーシブ授業での声かけの例
メタ認知	自分の学習状況を把握し、それを踏まえて行動を調整する力	「どんなところをかんばりましたか。」
知的好奇心	物事に興味・関心をもち、自分から進んで取り組む力	「もっと知りたいなと思ったことはありましたか。」
知的謙虚さ	自分の意見に謙虚な姿勢をもち、意見を柔軟に変更する力	「クラスの友達で頑張っていた人たちはいましたか。」
共感性	困っている人に共感したり、助けてあげたりする思いやり	「楽しそうにしていた人はいましたか。」

①交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討

1年生				2年生			
回	月	教科		回	月	教科	
①	5	生活科	「わかば学園のことを知る」	①	5	生活科	「わかば学園たんけん!」
②	6	生活科	「がっこうをたんけんしよう」	②	6	体育科	「横浜FCとあそぼう」
③	7	図工科	「やぶいたかたちからうまれたよ」	③	6	生活科	「まちたんけんにいこう」
④	9	国語科	「6年生の読み聞かせを聞こう」	④	7	体育科	「ボッチャをたのしもう」
⑤	11	図工科	「ならべてならべて」	⑤	9	音楽科	「いい音みつけて:打楽器合奏」
⑥	11	音楽科	「フルーツケーキ(打楽器合奏)」	⑥	10	生活科	「おもちゃランド」
⑦	12	道徳科	「みんなちがってみんない(人権学習)」	⑦	12	国語科	「ロボット(NAO、OriHime、外部講師)」
⑧	1	国語科	「もののなまえ(おみせやさんごっこをしよう)」	⑧	1	体育科	「マットランド」
⑨	2	特別活動	お楽しみ会	⑨	2	生活科	箱で遊ぼうよ



②現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

小学校		特別支援学校				
★カリキュラム・マネージャー	小学校担任・小学校専科担当	★小学部1年担任(新規)	★小学部2年担任(継続)	★小学部2年担任(新規)	小学部1・2年担任	カリキュラム・マネージャー
・週2回特支勤務(ST) ・共同学習MT ・図工専科(1・2年)	・担任:共同学習MT、共同学習ST ・音楽科専科(非常勤)、共同学習MT	・小学校6年生MT ・小学校1年生MT ・共同学習ST	・共同学習ST	・共同学習MT ・共同学習ST	・共同学習におけるST	・オンライン共同学習ST ・週1回程度、小学校個別(特別)支援級支援



本事業の成果（事業2年次）

・1年生では「生活科」「図工科」「国語科」「音楽科」「道徳科」「特別活動」、2年生では「生活科」「体育科」「音楽科」「国語科」で交流及び共同学習を実施し、各学年での交流及び共同学習について、知見を蓄積できた。また、2年間実践を重ねることで、児童・教員の姿に変容が見られた。

児童の姿	教師の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由のある子どもたちとの関わりを重ねるなかで、物理的・心理的な距離感が縮まり、自然に近くで関わろうとする姿が見られるようになった。 ・ 相手の動きや表情、しぐさに注目し、言葉にならない気持ちを感じとろうとする姿勢が育ってきている。 ・ はじめは教員の声かけをきっかけに関わっていたが、現在は児童同士が自ら相手の様子に気付き、声をかけたり行動を調整したりする姿が増えている。 ・ 「雨の中、帰るの大変だね。」「ちょっと、聞いて。一緒にやろうよ。」等、特支校の児童から小学校の児童へ声掛けをする姿が見られることもあり、両校の児童にそれぞれの共感性が育ってきている。 ・ 特支校の児童は場に慣れてきた。以前は、緊張があるのか、寝たり、泣いたり、怒ったりする場面が見られた。今では、授業に落ち着いて入れるようになってきた。授業開始の挨拶を特支校の方法にしてもらったり、その教科ごとの合図としてサインミュージックをはじめに流したりしている授業の工夫が良かったと思う。 ・ 特支校の児童が取り組める場面が増えてきた。事前にその単元の学習を特支校で行い、教材に触れることで、児童がやってみようという気持ちで学習に臨んでいるようだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身が答や正解を示すのではなく、「どうしたら一緒にできそうか」と問いを投げかけ、子どもと共に考える姿勢へと変化している。 ・ 小学校教員と特別支援学校教員が、それぞれの専門性を生かしながら、役割を固定せず、共に授業を作る協働的な関係へと深まっている。 ・ 今年度は特支校で特支教員による授業や一つの授業を音楽専科、小学校担任、特支校担任が行ってみた。このことにより、特支校教員は、特支校の児童の支援という立場だけでなく、学習支援の立場としても授業の役割を担うようになった。 ・ 児童同士をつなぐという役割について、どのような関わりが児童にとってよいのかを考えるようになった。

前年度からの
変化・改善点

授業前に共通指導案で小学校・特別支援学校両校の児童の実態を踏まえて「非認知能力（社会情動的コンピテンシー）」を明示することで、教員が意図的に非認知能力（社会情動的コンピテンシー）の育成を意識した指導・支援を行った。

【本事業における展望】

- ・ 小学校1・2年生と小学部1・2年生との交流及び共同学習に加え、小学校3年生と小学部3年生による交流及び共同学習の実施。
- ・ 教科・領域等の広がりへの検討。
- ・ 中学校と特別支援学校中学部との交流及び共同学習の在り方の検討。
- ・ 誰もが安心して共に学ぶことのできる空間の創出。

【本事業後の展望】

- ・ 「横浜市特別支援教育推進指針」に基づいた、9年間を通じた交流及び共同学習の展開。
- ・ 本事業においては欠かせない各学校をつなぐカリキュラム・マネージャーの在り方の検討。

課題

今後の展望